

ホーマイ®水和剤

(HOMAI WP)

登録番号 第13682号

種類名 チウラム・チオファネートメチル水和剤
thiram・thiophanate-methyl

殺菌剤分類 M3, 1

性状 類白色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 4年

有効成分 チウラム 30.0%、チオファネートメチル 50.0%

P R T R チウラム(PRTR・1種) 30.0%
チオファネートメチル(PRTR・1種) 50.0%

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包装 (100g×25袋)×4箱、500g×20袋

■特長

1. 広範囲の種子伝染性病害の防除に有効です。
2. 薬液の温度が10～30℃内であれば効果にふれがありません。
3. 大型の網袋に入れて消毒しても効果にむらがありません。

■適用病害虫名及び使用方法

(2021年10月27日現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 または使用量	使用時期	本剤の 使用回数	チウラムを 含む農薬の 総使用回数	チオファネート メチルを含む農薬 の総使用回数	使用方法
稲	イネシンガレセンチュウ	乾燥種もみ 重量の1.0%	浸種前	1回	1回	3回以内 〔種子への処理は 1回以内〕	種子粉衣 (湿粉衣)
	ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病 苗立枯病	乾燥種もみ重量 の0.5～1.0%					10分間 種子浸漬
		20～30倍					24～48時間 種子浸漬
	200倍	6～24時間 種子浸漬					
ばか苗病 いもち病	400倍	24～48時間 種子浸漬					
小麦	斑葉病 なまぐさ黒穂病	種子重量の 0.5～1.0%	は種前	1回	1回	4回以内 〔種子への処理は 1回以内、 散布および無人 ヘリ散布は合計 3回以内、出穂期 以降は2回以内〕	種子粉衣
		200倍					6～24時間 種子浸漬
麦類 (小麦を除く)		種子重量の 0.5～1.0%	は種前	1回	1回	3回以内 〔種子への処理 は1回以内、 出穂期以降は 1回以内〕	種子粉衣
		200倍					6～24時間 種子浸漬
はとむぎ	葉枯病 黒穂病	乾燥種子重量 の0.5～1.0%	は種前	1回	1回	1回	種子粉衣 (湿粉衣)
		200倍					72時間 種子浸漬
だいず	紫斑病	種子重量の 0.5%	は種前	1回	1回	4回以内 〔種子への処理 は1回以内〕	種子粉衣

殺菌剤 ホーマイ水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 または使用量	使用時期	本剤の 使用回数	チウラムを 含む農薬の 総使用回数	チオファネート メチルを含む農薬 の総使用回数	使用方法
野菜類 (豆類(未成熟)を除く)	フザリウム・リゾクトニア菌による病害 (つる割病等)	種子重量の 0.5～1.0%	は種前	1回	1回	1回	種子処理機 による 種子粉衣
豆類(種実) 豆類(未成熟)	フザリウム・リゾクトニア菌による病害	種子重量の 0.5%					種子粉衣
きゅうり	つる割病 苗立枯病	種子重量の 0.5～1.0%					30～60分間 種子浸漬
		200倍					
すいかの 接木用の ゆうがお	つる割病	種子重量の 0.5～1.0%					30～60分間 種子浸漬
		200倍					
トマト	萎凋病		20～30分間 種子浸漬				
にんにく	黒腐菌核病 イモグサレセンチュウ	種球重量の 1.0%	植付前			1回	種球粉衣 (湿粉衣)
花き類	フザリウム・リゾクトニア菌による病害 (苗立枯病等)	種子重量の 1.0%	は種前	1回	1回	5回以内	種子処理機 による 種子粉衣
ストック、アスター けいとう、べにばな シクラメン、まつ すぎ、ひのき	苗立枯病	200倍					30分間 種子浸漬
		種子重量の 1.0%					種子粉衣
チューリップ すいせん、ゆり グラジオラス フリージア	球根腐敗病	200倍	植付前 または 貯蔵前				
		球根重量の 1.0%		球根粉衣			

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. 薬液の調製はまず少量の水に溶かし、次に所定量の水を加えよく攪拌してください。
3. 薬液の温度はなるべく10℃以下をさけてください。
4. 種子粉衣(球根粉衣)の場合は適当な容器の中で、均一に種子(球根)に粉衣するように少量ずつ丁寧にまぶしてください。水稻、はとむぎの場合を除き、湿粉衣はさけてください。
5. 低濃度(200～400倍)長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌してください。
6. 本剤はフザリウム菌、リゾクトニア菌およびペニシリウム菌による苗立枯病と球根腐敗病に対しては有効ですが、他の病原菌による発病地帯での使用はさけてください。
7. 水稻の種子消毒に使用する場合には次の注意事項を守ってください。
 - (1) 種子消毒は浸種前に行ってください。
 - (2) 種もみと浸漬処理薬液との容量比は1:1とし、種もみはサラン網など、粗目の袋を用い薬液処理時によくゆすってください。
 - (3) 粉衣処理は付着をよくするため、あらかじめ種子を湿らせ(塩水選、水切り後などが適当)、湿粉衣としてください。
 - (4) 薬剤処理した種もみは少なくとも数時間は放置して風乾後、水洗せずに浸種してください。
 - (5) 浸種は停滞水中で行ってください。
 - (6) 浸種の浴比は1:2とし、水の交換は原則として行わないでください。ただし、液温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水してください。
 - (7) 粉衣処理および高濃度浸漬処理(20～30倍)をした種子を育苗箱には種する場合は浸種終了後、浸種液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてからは種してください。
8. 消毒後の球根は水洗せずに植付けるか、風乾して貯蔵してください。
9. 種子浸漬処理の場合(水稻の場合を除く)は、浸漬後、水洗せずに風乾してからは種してください。

10. はとむぎの種子浸漬処理の場合は乾燥種子を所定時間浸漬したのちに水洗せずに風乾してからは種してください。
11. 本剤で処理した種子等は食料や動物飼料として用いないでください。
12. 本剤を使用したつまみ菜、間引き菜等の幼植物は食用に供しないでください。
13. イネシנגアレセンチュウに対しては効果が不十分な場合があるので、イネシングアレセンチュウだけを対象としての使用はさけ、ばか苗病などの同時防除剤として湿粉衣してください。(使用量は乾燥もみ重量の1%)
14. 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意      

15. 眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
16. 薬液調製時及び使用の際は保護メガネ、農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
17. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
18. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

-
- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤などで消火に努めてください。
 - 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収してください。
 - 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
 - 使用量に合わせ薬剤を調製し、使いきってください。空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。
-

●ホーマイ水和剤の上手な使い方

稲の種子消毒に使用する場合

- ①種もみと浸漬処理液との容量比は1：1（例えば種もみ10ℓに対し薬液は10ℓ）とし、種もみはサラン網など、粗めの袋を用い薬液処理時によくゆすってください。
- ②浸種の浴比は1：2（例えば種もみ10ℓに対し水20ℓ）とし、水の変換は原則として行わないでください。ただし、液温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水してください。